

インドネシア巡回健康相談における 在住邦人の産科・婦人科関連の問題

¹⁾鳥取大学医学部保健学科

²⁾鳥取大学医学部附属病院

前田隆子¹⁾, 稲光哲明¹⁾, 富田 豊¹⁾, 片山理恵¹⁾, 笠置綱清¹⁾, 鈴木康江²⁾

Health Consultation related to Obstetrics and Gynecology for Japanese in Indonesia

Takako MAEDA¹⁾, Tetsuaki INAMITSU¹⁾, Yutaka TOMITA¹⁾,
Rie KATAYAMA¹⁾, Tsunakiyo KASAGI¹⁾, Yasue SUZUKI²⁾

¹⁾*School of Health Science, Faculty of Medicine, Tottori University*

²⁾*Tottori University Hospital*

Yonago, Tottori 683-8504, Japan

ABSTRACT

Health consultation for Japanese living in Indonesia was done in 2000. The number of females who received consultation relating to obstetrics and gynecology was 26. Problems involving gynecology were menstrual disorders, menopausal disorders, discharge from the womb and vaginal itching, anxiety from possible pregnancy and problems after Caesarean. Matters of obstetrics involved medical examination for pregnancy, anxiety concerning the progress of pregnancy and Caesarean, and morning sickness. A lot of concern centered around possible need for Caesarean. We think that a consultation system for pregnant Japanese women living in Indonesia is necessary. (Accepted on November 23, 2001)

Key words : consultation, Obstetrics and Gynecology, Japanese, Indonesia

はじめに

近年、海外で生活する邦人が増加している。企業から派遣されている社員については、定期的な健康診断が行われている場合が多いが、その家族、現地採用者、個人営業、あるいは現地で結婚している婦人が健康相談を受ける機会は少ない。そこで、外務省によって、海外で生活する邦人の健康維持のために、日常の健康管理に関する相談事

業¹⁾が実施されている。

この事業は、多くの大学に委託されている。2000年度の鳥取大学チームの担当地区はインドネシアであった。その巡回相談における対象者の大半は成人男性であった²⁾が、女性からの相談もみられた。

これまで、海外での出産体験等についての報告は、インターネット等で多数見られる。しかし、海外に在住する女性の幅広いライフステージにお

表 1 婦人科関連の相談

対象番号	年齢	インドネシア 滞在期間	職業	主訴
1	64	2年	主婦	子宮癌検診希望（癌診断の遅れを危惧）
2	49	10年	主婦	子宮癌検診希望（1年半前の子宮癌検診でclassII），※1
3	48	6年	主婦	月経不順（いらいら，食欲不振）
4	47	1年	主婦	無月経（発汗，不眠）
5	44	3年	主婦	多量発汗
6	41	13年	会社員	月経不順
7	40	8年4か月	会社員	月経不順
8	24	3年5か月	会社員	月経不順（未婚）
9	35	8年	会社員	帯下と掻痒感（未婚）
10	29	3年	会社員	帯下と掻痒感（未婚）
11	42	3年	主婦	妊娠不安（出産希望せず）※2
12	34	8か月	主婦	月経の遅れ，帯下と掻痒感
13	39	2年11か月	主婦	前回帝王切開（次回妊娠の可否）
14	38	2年	会社員	帝王切開後経過不安
15	30	2年	主婦	前回帝王切開（次回妊娠の可否），※3
16	25	夫が日本人	主婦	帝王切開後経過不安，※4
17	24	夫が日本人	主婦	帝王切開後創トラブル（掻痒，浸出液）
18	40	11年	主婦	流産，※5

註：※1～5は本文を参照

ける健康管理についての報告³⁾は少ない。そこで、本報告では、インドネシア巡回健康相談における、女性からの相談内容について検討した。

対象および方法

外務省の委託による派遣巡回健康相談を、インドネシアの6地方都市で、2000年11月2日から11月22日の間に実施した。個別に面接して、相談を受けた内容を、終了直後にメモして、表にまとめた。

1) 婦人科関連の相談

対象者は18名で、年齢24～64歳、インドネシアに居住している期間は最少で8ヵ月であり、日本人男性と結婚している現地女性の25歳など2名が含まれる。職業は会社員6名、主婦12名であった。

2) 妊婦の相談

対象者は8名で、年齢24～35歳、インドネシアに居住している期間は5ヵ月から5年であり、妊娠週数7～41週であった。職業は会社員3名、自営業1名、主婦4名であった。また現地の医療事情

については大使館医師、現地で開業している日本人医師や日本に留学したことのある現地人医師からの聴取と、現地の病院見学により情報を得た。

結 果

1) 婦人科関連の相談

相談内容を表1に示した。子宮癌検診の希望、月経不順、更年期障害、帯下と掻痒感、妊娠不安、帝王切開後の問題等であった。婦人科に関連する相談については、話しを聴くことを心掛け、基礎体温の測定法と意義、避妊法、およびSTD予防と外陰のケアについての説明を行った。実施できた検査は、検尿、血圧測定、キットによる妊娠の判定であった。そして、全員が、併せて内科的な診察を受けられた。表1中の症例2（※1）では夫との不和、症例11（※2）では妊娠の不安と、妊娠を望んでいない理由として、前回の妊娠経過（体重が16kg増加、股関節痛）、ならびに飲酒と喫煙の状況が話された。症例15（※3）では帝王切開を受けた経過（予定日に破水して受診したが、

表2 妊婦の背景と主訴

対象番号	年齢	在住期間	初, 経産別	妊娠週数	主訴
1	35	1年2か月	初産	41	手背浮腫, 自然分娩希望
2	31	1年7か月	初産	33	帝王切開の不安
3	35	3年	初産	33	妊娠経過の不安
4	29	3年	初産	30	下肢浮腫
5	33	5年	経産	29	感冒 (薬希望)
6	24	5か月	初産	17	頭痛, 妊婦保健指導希望
7	30	1年	経産	8	軽度つわり, ※6
8	29	5か月	初産	7	つわり

註：※6は本文を参照

多量の羊水が出るのに大丈夫と言われ帰宅した。翌日受診したところ、4時間以内に出さないと母体と胎児が危ないと言われ、帝王切開を受けた。症例16(※4)では帝王切開後の出血(術後に35日間出血が持続して、受診し、注射を受けた。しかし、1週たっても止血せず、再度受診して、内服薬の処方を受けた。その際に、注射は避妊薬であったと説明された。21日間の内服中は止血していたが、翌日から再び出血し、今6日間持続している)、出血と内服による授乳への影響を心配。症例18(※5)では前日に流産し、流産をくり返していることの原因について、妊娠前の避妊にピルを使用していたことや、喫煙20本/日の影響に関しての質問があった。

2) 妊婦からの相談

相談内容を表2に示した。相談内容はつわり、頭痛、浮腫、妊娠の経過および分娩様式(帝王切開の不安、自然分娩希望)に関する質問であった。通常の妊婦検診(検尿、血圧測定、レオポルド触診、腹囲と子宮底長測定、トラウベによる児心音聴取)を実施し、併せて相談を受けた。妊婦検診の結果は妊娠経過図⁴⁾に記入し、経過を説明した。この内で問題がみられたものは、胎児発育不良1例および妊娠中毒症を疑われる2例(表2の症例3, 1と4)であった。胎児発育不良を疑った症例は医療機関の受診を勧め、安静と食事内容の改善を指導した。妊娠中毒症は軽症であり、食事の注意と休養をすすめた。つわりについては、摂取の可能な食品を探すことを勧めた。軽度の症例7(※6)では、すでに現地医療機関を受診し、4種類の制

吐剤ならびにビタミン剤の処方を受けており、服薬することに不安がみられた。

考 察

1) 婦人科関連の相談

相談内容は、子宮癌検診の希望、月経不順、更年期障害、帯下と掻痒感、妊娠不安、帝王切開後の問題等についてであった。

①子宮癌検診の希望

日本における子宮癌検診の実施は、その他の癌検診と同様に、老人保健法で30才以上の女性を対象に、年1回実施して、必要な保健指導を実施することが求められている。しかし、インドネシア在住邦人女性の場合には、その機会がなく、多くの相談者が検診を希望していた。今後は巡回健康相談の機会に、子宮癌検診の要望に応えられることが望ましいと考える。

②更年期前後症状と月経不順

月経不順や閉経と併せて、不定愁訴がみられ、更年期の過ごし方を説明した。また、他の合併症の見逃しが無いように、全例で内科の検診が行われた。多量の発汗を訴えられた方では、甲状腺機能疾患が疑われた。年齢としては、40代前半が半数以上であり、生活のいろいろな側面でのストレスの影響があると推察された。

例えば、宗教の面では、現地の男性と結婚している主婦では、民家の玄関先に置かれる供物の準備に多大な時間を割くことになり、また、祈りは夜半にも行われるために睡眠不足になっていた。大家族の中では、男児を出産することが要求され

ていた。気候は、我々の訪問時には雨季であり、豪雨と湿気に悩まされた。乾季になれば、高温が続き、そのために、裕福な家では床が大理石で作られているといわれるほどである。また、蚊による虫刺されや水道水中の細菌等の健康に直結する問題もある。このような社会、自然環境の中で、常に潜在的なストレス状態にあるものと考え。若い婦人での月経不順については、基礎体温を測定して、医療機関を受診することを勧めた。

2) 妊婦からの相談

①妊婦診察

今回のような単発の妊婦健康相談では、これまでの経過が全く不明であり、また、その後の経過をみることもできない。相談日での測定値を妊娠経過図に記入して説明し、体重、血圧、子宮底長については理解されたと考える。しかし、妊娠経過を診てほしいという要望は、日本の妊婦管理と比較して、現地の妊婦管理体制や医療に不安を感じていることによると思われる。病院での検診を受けた婦人は、超音波検査を受け、男児であることを告げられただけであったと話された。

胎児発育不良を疑われる1例については、胎児の大きさに不安を感じている旨を話して、現地の医療機関を受診することを勧めた。また、妊娠中毒症に関しては、食事の注意と休養の必要性を説明し、実行できれば改善すると考えた。しかし、食事については、指導する側が日常生活で用いられている材料や調理法を知った上での助言でなければ実行されにくい。さらに、この相談者は、現地の大家族の中で生活しており、姑によって食事が準備される状況であるため、困難が多いと推察した。

妊娠、分娩は、ヒトの自然な営みではあるけれども、心身の負担は大きく、また合併症が顕在化する場合もあり注意を要する。日本では、心身の負担軽減のために、里帰り出産の習慣があるほどである。まして、異国で妊娠し、分娩するには多くの不安が伴う。インドネシアにおける医療職者の立ち会いによる出産は、36%という報告がある⁵⁾。母子共に安全な出産にするためには、継続的な相談システム、例えばITを利用した日本の医療機関との相談システムの構築や日本語と英語併記の母子手帳の入手、活用等が望まれる。

②帝王切開

婦人科関連の相談と妊婦相談の双方において、帝王切開に関連する不安が多く聞かれた。

不十分な妊婦管理と高齢出産が多い中では、帝王切開が多くなるのもやむを得ないと考えられる。しかし、手術の適応についてのインフォームドコンセントが不十分であるために、不安が生じていることが推察された。また、帝王切開術後は、歩行が可能になるとすぐに退院させられる状況であり、心身の苦痛が大きいと思われる。退院後の創管理についても、水道水自体が汚染されている状況では、手洗いや衛生材料の清潔さに問題があり、困難が予測される。

結 語

インドネシア在住邦人の健康相談を2000年に実施した。その内の産科および婦人科に関連する相談者は26名であった。婦人科関連の相談事項は、月経不順、更年期障害、帯下と掻痒感、妊娠不安、帝王切開後の問題等であった。また、子宮癌検診の希望があった。産科関連事項は帝王切開前後の不安とトラブルが多く、妊産婦のための継続的相談システムの構築が必要であると考えられた。

本報告のインドネシア巡回健康相談は外務省の事業として実施されたものであり、ご指導賜りました外務省ならびに現地総領事館の関係各位に感謝致します。

文 献

- 1) 新美潤, (2000) 外務省巡回医師団, 海外勤務と健康, 12, pp. 6-8.
- 2) 稲光哲明, 谷垣静子, 笠置綱清, 宮林郁子, 富田豊, 前田隆子, 投稿中 インドネシア在住邦人の生活習慣病と健康管理, 心身医学.
- 3) 大西守, 篠原史代, 山口修, (1990) 海外駐在員の妻たちの精神医学的問題, 臨床精神医学, 19, pp. 1715-1721.
- 4) 前田隆子, 杉原千歳, (1986) 妊娠経過図の活用による妊産婦自己管理法, ペリネイタルケア, 50, pp. 58-62.
- 5) 森淑江, (1999) 保健医療の現状と分析, 国際看護学入門, pp. 49-56, 医学書院.